

第 20 号の 3 様式記載要領

- 1 この申告書は、前事業年度の法人税割額を基礎として中間申告をする場合に使用すること。
- 2 この申告書は、事務所又は事業所所在地の市町村長に 1 通を提出すること。
- 3 ※印の欄は記載しないこと。
- 4 「法人番号」欄には、法人番号(行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律第 2 条第 15 項に規定する法人番号をいう。)を記載すること。
- 5 金額の単位区分(けた)のある欄の記載に際しては、単位区分に従って正確に金額を記載すること。
- 6 法人課税信託の受託者が当該法人課税信託について、この申告書を提出する場合にあっては、「法人名」の欄には法人課税信託の名称を併記すること。
- 7 「前期末現在の資本金等の額」の欄は、法第 292 条第 1 項第 4 号の 2 ロ又はハ(政令第 45 条の 4 において準用する政令第 6 条の 24 第 2 号又は第 3 号に定める金額に限る。)に定める額を記載すること。
- 8 「
$$\left[\text{予定申告税額} \times \frac{6}{\text{前事業年度の月数}} \right] \textcircled{2}$$
」の欄は、当該事業年度開始の日から法第 321 条の 8 第 1 項又は第 2 項に規定する 6 月経過日の前日までの期間の月数(暦に従い計算し、1 月に満たない端数を生じたときは、1 月とする。)が 6 以外である場合には、分子の「6」を当該月数に読み替えて計算した金額を記載すること。
- 9 「通算親法人の事業年度の期間」の欄は、法人税法第 2 条第 12 号の 7 に規定する通算子法人が、当該事業年度開始の日の属する当該法人に係る通算親法人(同条第 12 号の 6 の 7 に規定する通算親法人をいう。)の事業年度の期間を記載すること。
- 10 「法第 15 条の 4 の徴収猶予を受けようとする税額」の欄は、法第 15 条の 4 第 1 項の規定の適用を受けようとする場合において、第 1 号様式による届出書に代えようとする法人が記載すること。